

第3回 積雪寒冷地における道路舗装の長寿命化と

予防保全に関する検討委員会

議事概要

■ 第3回検討会：令和4年8月2日（火）

【議 題】

- ・積雪寒冷地に対応した舗装技術に関する情報提供
- ・現場実証（試験施工）について
- ・低温ひび割れ詳細調査（案）について

【議事概要】

- 各委員より積雪寒冷地に対応した舗装技術に関する情報提供、現場実証（試験施工）、低温ひび割れ詳細調査（案）について報告があり、以下を確認した。

◇積雪寒冷地に対応した『3本柱』の舗装技術に関する情報提供

1. 耐久性の高い舗装を設計・施工する技術
 - ・新たな舗装材料（合材）の紹介
 - ・「ガラス発泡軽量材」の路盤・凍上抑制層への適用の紹介
 2. 効率的な点検・診断技術
 - ・「市町村道路の舗装点検DXとマネジメント高度化」の紹介
 3. 効果的な補修技術
 - ・新たな補修材料の紹介
- ・北海道の地方のプラントは、新しい材料が開発されても将来を見据えた設備投資は決断が難しい。新しい技術を汎用的に進める必要がある。
 - ・脱炭素に向けた取組も見据えて、技術を進めていく必要がある。
 - ・AIを活用した舗装点検・診断の次のステップとして、データをどのように維持管理していくのが重要である。

◇現場実証（試験施工）について

- ・試験施工自体が目的ではなく、新しい材料を使用することにより従来技術とどのように変わるのかを調査することが重要
- ・そのため長期的な調査項目を開発した会社と打ち合わせし、予め検討する。MMS（モバイルマッピングシステム）や3Dレーザースキャナーなどのデータを残してほしい。
- ・積雪寒冷地の対応できる技術が多くあると思うので、委員会で紹介し、現場実証できるように進めていく。

◇低温ひび割れの詳細調査（案）について

- ・若手の技術者に現場視察をしてもらい、意見交換等を行うことでモチベーションをあげるような取り組みが重要
- ・AIを活用して判定するなど、計画的に調査を行う必要がある。

以上